

## TW WOOD

### 取扱い説明書



#### ご使用にあたって

- 商品のご使用前にこの説明書をよくお読みいただき、いつでもご覧頂けるように大切に保管してください。

販売店・工務店・建設会社の皆さまへ  
この取扱い説明書は施工後、お施主さまへお渡してください。

## はじめに

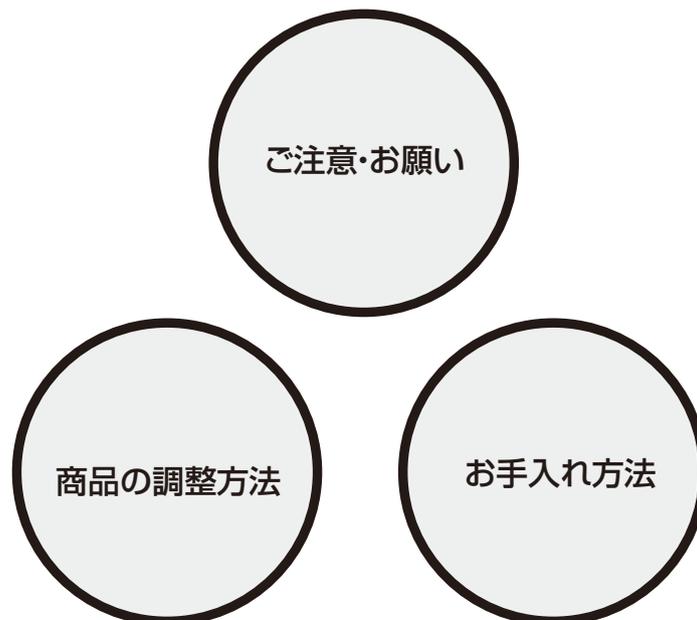
このたびは、当社商品をご採用いただき誠にありがとうございます。

本書は、商品をながく安全にお使いいただくための、主なご注意・お願い及び商品の調整・お手入れ方法をまとめたものです。

本書をよくお読みいただいた上で、当社商品をご使用いただきますようお願いいたします。

なお、電動商品等の特別な機能を有している商品や特有な操作方法がある商品については、別途、個別の取扱い説明書がありますので、併せてご覧ください。

## 本書の構成上の3つのポイント



商品ラベルからお使いの商品情報をご覧いただけます。

お使いのLIXIL商品に貼られているラベルに2次元コードがあれば、スマートフォンで読み取って各商品のお役立ち情報をご覧いただけます。



サーモス A ∞PVC,AL  
縦すべり出し窓カムラッチ  
株式会社 LIXIL

(ラベルの場所がわからない方は  
お客様サポートサイトをご覧ください。)



# 目次

第1章 安全にお使いいただくために	2
第2章 商品別で使用上の注意とお願い 及び各部の調整方法について	
1. 引違い窓・片引き窓・網戸	3
・ 窓の開け方・閉め方	
・ 障子の調整	
・ クレセント錠の調整	
・ 戸車の調整	
・ 気密ピースの調整	
・ 下枠の清掃方法	
・ 障子のはずれ止めの調整	
・ 障子のはずし方	
・ 網戸の調整・はずし方	
2. 窓シャッター	8
・ 各部のなまえとはたらき	
・ 窓シャッターの開け方・閉め方	
・ 連窓方立の取外し方・取付け方	
・ 点検	
・ お手入れのしかた	
・ 窓シャッターが動かない場合	
第3章 お手入れ方法（清掃方法）	
1. アルミ製商品のお手入れ	14
2. 樹脂製商品のお手入れ	14
3. 木製商品のお手入れ	15
4. 網戸のお手入れ	15
5. ガラスのお手入れ	15
第4章 商品のご使用にあたって	
1. 窓の結露について	16
2. 窓シャッターについて	16
3. 二重サッシの雨水の浸入について	17
4. 窓を閉めきった時のすき間風について	17
5. 強風時、換気扇使用時の笛鳴り現象について	17
6. ステンレスの錆について	17
7. ガス給湯器などの排気ガスによる腐食について	17
8. ガラスについて	18
第5章 窓の基本性能について	
1. 水密性	20
2. 気密性	20
3. 断熱性	20
4. 遮音性	21
5. 耐風圧性	21
6. 防犯性	21
第6章 アフターメンテナンスについて	22
第7章 商品保証について	23
第8章 複層ガラスの保証について	24

# 第1章 安全にお使いいただくために

- 商品をご使用いただく上で、人身事故や財産の損害を未然に防止するために、守っていただきたいこととして下記のような警告表示をしています。内容をよくご理解の上、商品をご使用ください。
- 窓、網戸の開閉は、人がぶつかったり、指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがありますので、周囲に人がいないことを確認し、引手を持ち、ゆっくりと行ってください。
- 窓、網戸の開閉時、指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがありますので、操作部品や可動部品のすき間、窓(網戸)と枠のすき間に手や足を置かないでください。
- 窓、網戸の取りはずしや調整を行う前に、必ずこの取扱い説明書を読んで正しい操作を行ってください。
- 窓、網戸の取りはずしや取付け・調整などを行う際は、周囲に人がいないことを確認し、安全に十分注意して行ってください。
- 窓をしっかりと閉め、確実に鍵をかけてください。施錠後は、錠がかかっていることを確認してください。
- 窓、網戸に寄りかかるなど荷重をかけないでください。
- 長期間商品をご使用になりますとねじのゆるみが発生することがあります。商品のねじがはずれたり、ゆるんでいないか時々点検してください。
- お手入れなどで窓から身を乗り出さないでください。
- お手入れなどのために障子や網戸をはずした後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従ってはずれ止め部品を必ずかけてください。
- 外出時や就寝時、また強風時には必ず窓を閉め、主錠だけでなくクレセントロックや補助錠も必ず施錠してください。
- サッシの錠を分解しないでください。故障して施解錠できなくなるおそれがあります。
- 窓の近くに、小さなお子さまが飲み込んでしまうような部品が落ちていないかご確認ください。
- 開閉時や操作時に異常(がたつき、異音、重い、固いなど)を感じた場合は、ご使用を中止し、お取り扱いの建築会社、施工店、工務店、販売店または当社お客様相談センターにお問い合わせください。
- 製品の設置や修理は必ず専門業者に依頼してください。人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

## 警告用語の種類と意味

警告用語	意 味
 <b>警告</b>	取扱いを誤った場合、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。
 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。 商品毎の冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。
<b>お願い</b>	特に注意を促す情報で、使用者などが思わぬケガをするおそれや、機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

# 第2章 商品別ご使用上の注意とお願い及び各部の調整方法について

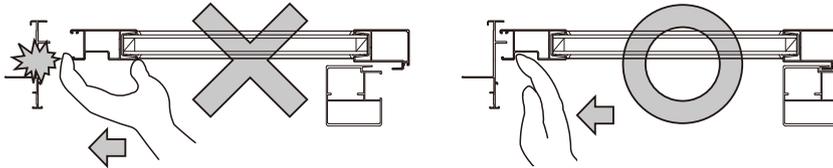
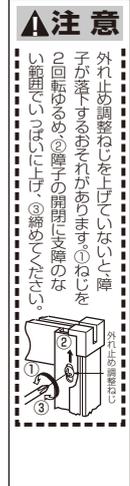
## 1. 引違い窓・片引き窓・網戸

※はずれ止めの近くに表示ラベルを貼付してありますので、ご覧ください。

### ▲ 注意

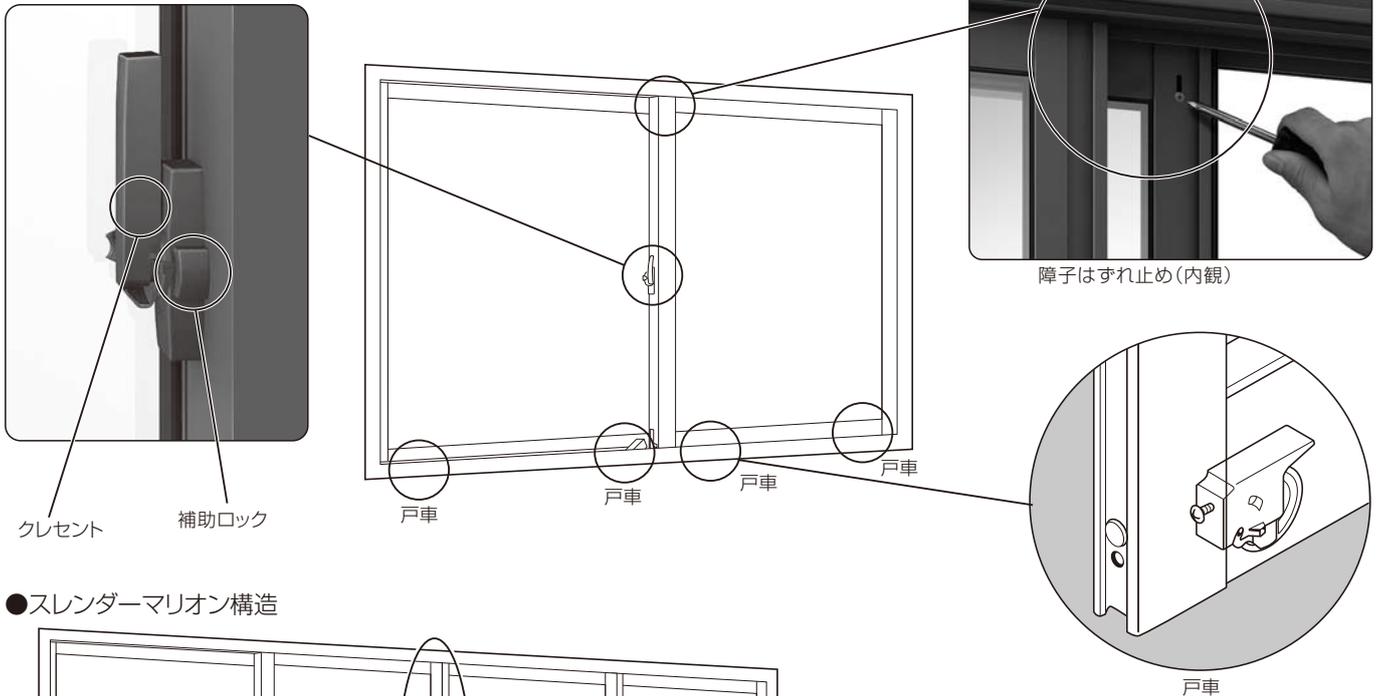
- お手入れなどのために障子をはずした後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従ってはずれ止め部品を必ずかけてください。ご使用中、はずれ止め部品がずれることがあります。時々点検してください。はずれ止め部品が正しくかかっていないと、障子が窓枠からはずれて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
- 障子の外側を拭く時に、障子を掴んで体重をあずけないでください。障子が窓枠からはずれて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
- 窓(網戸)の開閉は、周囲に人がいないことを確認し、引手やハンドルを持ちゆっくりと行ってください。指などの身体をはさまれケガをするおそれがあります。
- 窓(網戸)の開閉時に、窓(網戸)と枠、窓(網戸)と窓(網戸)のすき間に手や足を置かないでください。指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
- 窓の操作部品や、可動部品のすき間に手や足を置かないでください。指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
- 風の強い時は窓を閉め、必ずロックしてください。ロックしないと、風の力で窓が急に開閉し、その衝撃で破損や落下が起こり、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
- 開閉時、引手を持って操作してください。引手以外のところを持つと指を挟むおそれがあります。

表示ラベル例

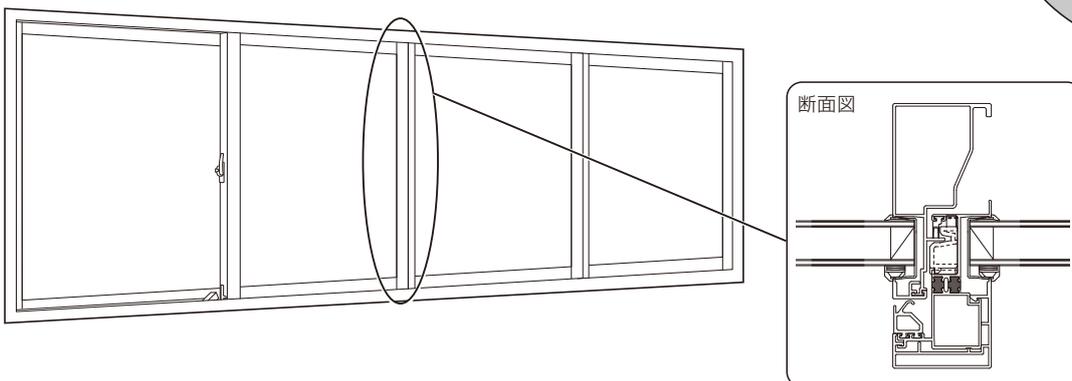


### ■引違い窓・片引き窓における各部の名称

引違い窓・片引き窓における各部の名称は、下記のとおりです。



### ●スレンダーマリオン構造



## 窓の開け方・閉め方

### 窓の開け方

- ①クレセントの補助ロックを上を持ち上げ、解錠します。
- ②クレセントのレバーを下にさげ、引手に指をかけて、開けたい位置まで静かに障子をあけます。

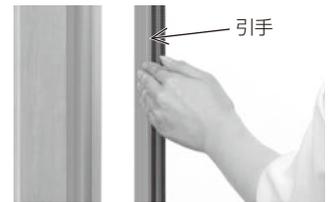
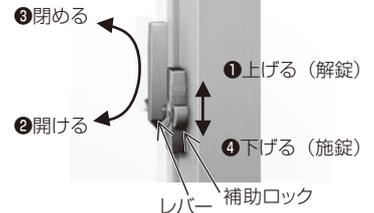
### 窓の閉め方

- ③引手に指をかけて、障子をしっかりと閉めてからクレセントのレバーを上にあげます。
- ④クレセントの補助ロックを下げます。



### ■補助ロック付クレセント

クレセント



## 障子の調整

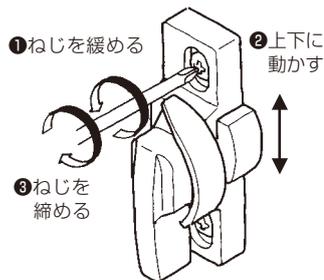
☆障子に不具合が発生した場合は、次の通り調整を行ってください。なお、ご自分での調整が難しい場合は、施工された業者にご相談ください。不具合が発生したまま使用し続けると、部品にキズがついたり、破損するおそれがあります。

### クレセント錠の調整

- クレセント錠がかからない、閉めても障子がかたつくようになった場合にクレセント錠本体と受けを調整してください。クレセント錠本体は上下に、クレセント錠受けは左右に調整できますのでわかりやすい位置に合わせ、取付けねじを締めてください。

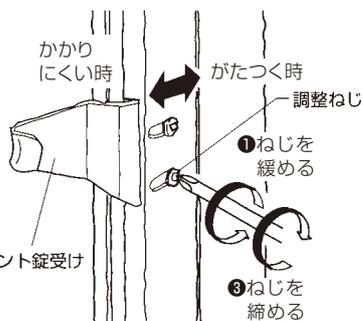
#### ●クレセント錠本体

- ①クレセントキャップをはずし、2箇所を取付けねじを緩めます。
- ②上下に動かし、クレセント錠受けとの位置を調整します。
- ③取付けねじを締めます。



#### ●クレセント錠受け

- ①2箇所の調整ねじを緩めます。
- ②クレセント錠がかかりにくい場合は左方向に、障子がかたつく場合は右方向に位置を調整します。
- ③調整ねじを締めてください。



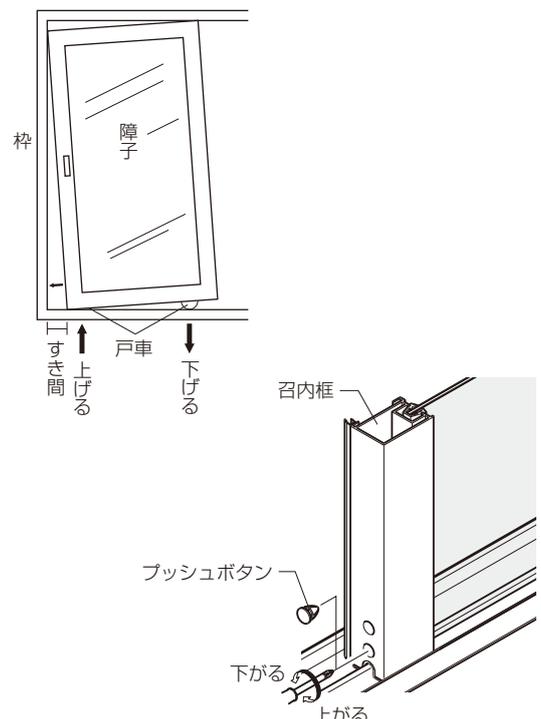
クレセント本体を取り外してから調整してください。クレセントキャップを外し、2箇所の取付けねじを外し、クレセント本体を外します。

### 障子の戸車の調整(建付け調整)

- 開口部に狂いが生じた時に、戸車の高さ調整をしてください。

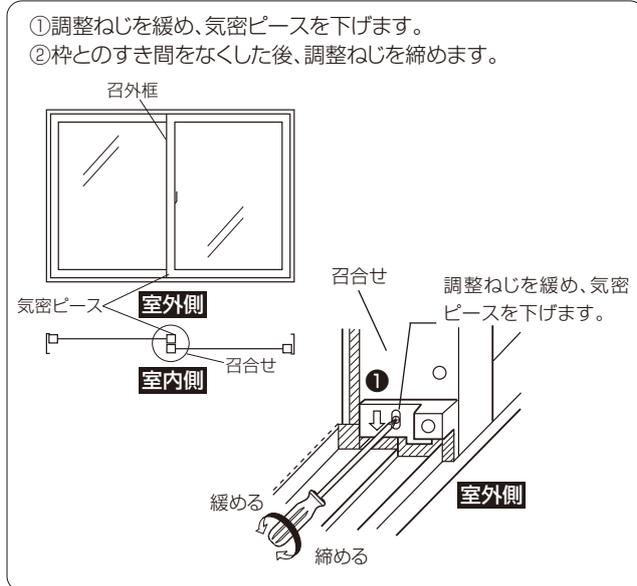
- ①障子の下端にあるプッシュボタン(ないものもあります)をいったんはずし、調整ねじをまわし、高さ調整します。
- ②調整後はプッシュボタンを戻してください。

障子を上げたい場合…右にまわす(時計まわり)  
障子を下げたい場合…左にまわす(反時計まわり)



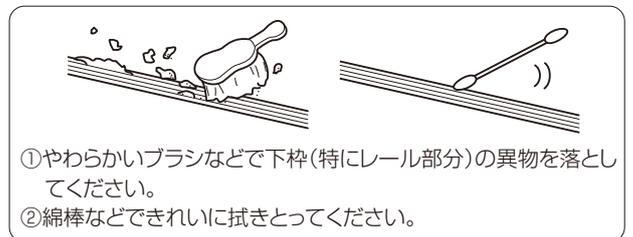
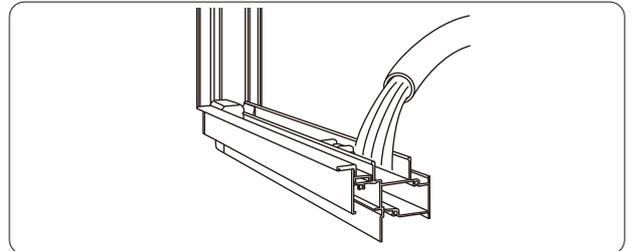
## 気密ピースの調整

- 戸車で建付け調整した後、気密性を保つために召合せ外の気密ピースを下げて、枠とのすき間を発生させないように調整してください。



## 下枠の清掃方法

- 万が一、下枠に水がたまってしまいう状態になりましたらホース等で水をかけてごみを排出してください。  
※一部該当しない商品もあります。
- 下枠はこまめに清掃してください。下枠に砂・ほこりなどの異物が付着したままご使用されますとキズ・塗装はがれが発生するおそれがあります。



## 障子のはずれ止めの調整

- ①障子のはずれ止め調整ねじを左にまわし、緩めます。
- ②はずれ止め部品にドライバーを入れ、障子の開閉に支障のない範囲で、上にあげてください。
- ③調整完了後、緩めたねじをしっかりと締めてください。

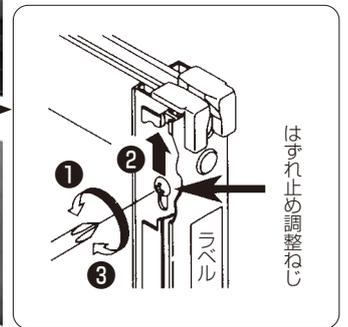
また、商品に表示ラベルを貼付してありますので、お読みください。

### お願い

内障子を建込む前に調整してください。



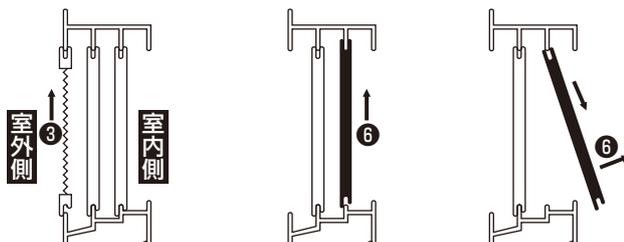
障子はずれ止め調整(内観)



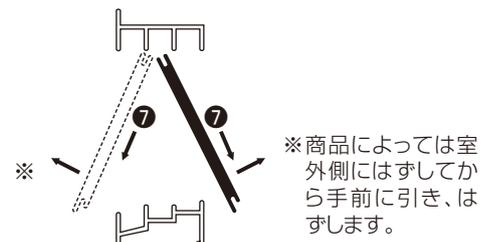
## 障子のはずし方

やむを得ず、障子をはずすときは、下記を参照してください。

- ①網戸框上部のはずれ止めの調整ねじを左(反時計まわり)にまわして緩め、はずれ止めを下げます。(P.6参照)
- ②網戸戸車の操作つまみをドライバーなどで引き出してください。(P.7参照)
- ③網戸を持ち上げ、はずします。
- ④室内側の障子を持ち上げ、下部を手前に引き、はずしていきます。
- ⑤室外側の障子のはずれ止めのねじを左にまわし緩め、はずれ止めを下げます。(P.6のはずれ止めの調整を参照)
- ⑥気密ピースの調整ねじを緩め、上にあげます。(P.6参照)
- ⑦室外側の障子を持ち上げ、下部を手前に引き、はずします。



障子を入れるときは、逆手順で行ってください。



☆障子は、重いので障子をはずす場合及び入れる場合は2人以上で作業するようお願い致します。

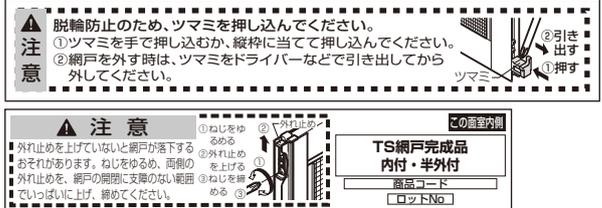
**網戸の調整・はずし方** ※商品に表示ラベルを貼付してありますので、ご覧ください。

- 網戸のご使用中でもまれに虫が侵入することがあります。虫の大きさによっては、完全に進入を防ぐことはできません。
- 網戸は内障子側でのご使用を基準としています。外障子側でのご使用の際は、若干のすき間が生じる場合があります。

**▲ 注 意**

- お手入れなどのために網戸をはずした後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従ってはずれ止め部品及び脱輪防止部品を必ずかけてください。
- ご使用中、はずれ止め部品がずれることがあります。時々点検してください。はずれ止め部品が正しくかかっていないと、網戸が窓枠からはずれて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

表示ラベル例



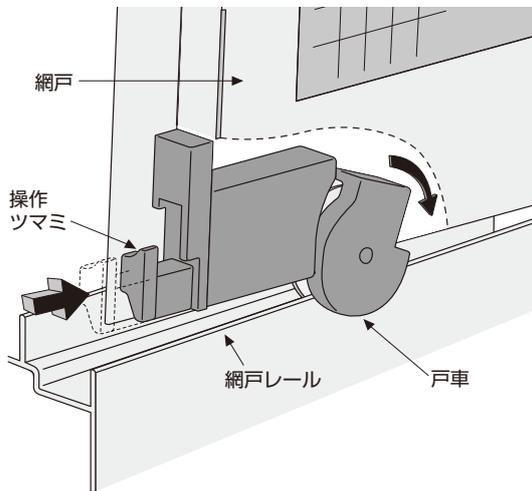
**お願い**

- 網戸に寄りかからないでください。また、押さないでください。網が破れたり、網戸が枠からはずれてケガをするおそれがあります。特に、お子さまにはご注意ください。

**網戸の調整**

**網戸の戸車の調整**

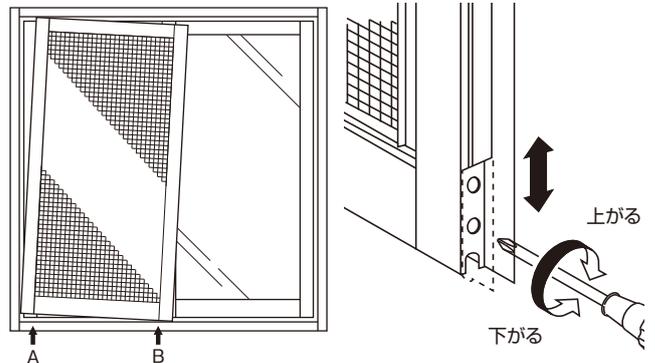
- 操作ツマミを押し込んでください。ロックが解除され、網戸が浮いても戸車がレールからはずれにくくなります。
- ※網戸の脱落防止のため、上部のはずれ止め部品は必ずかけてください。



- 網戸の取付け後、網戸枠とサッシ枠との間にすき間が生じる場合は、障子と同様に戸車を調整してください。

**●戸車の調整(建付け調整)**

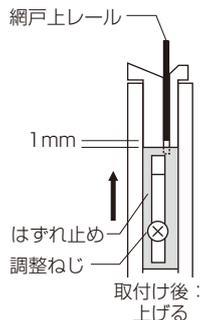
網戸を上げたい場合 …… 右にまわす  
 網戸を下げたい場合 …… 左にまわす



A部 … 調整ねじを左(反時計回り)へまわす  
 B部 … 調整ねじを右(時計回り)へまわす

**網戸はずれ止めの調整**

- 戸車の調整後、網戸の脱落防止のため、網戸枠上部のはずれ止めを上げて固定してください。



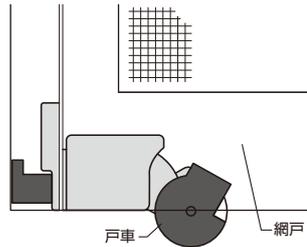
## 網戸のはずし方

- ① 網戸框上部にあるはずれ止めの調整ねじを左へまわし、緩めます。
- ② はずれ止めを下げます。
- ③ 網戸戸車の操作ツマミをドライバーなどで引き出してください。
- ④ 網戸を持ち上げ、はずします。

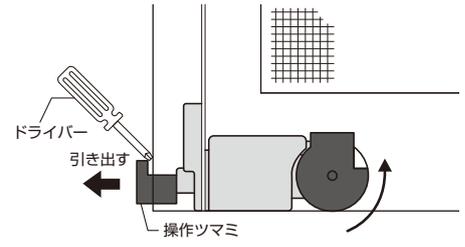
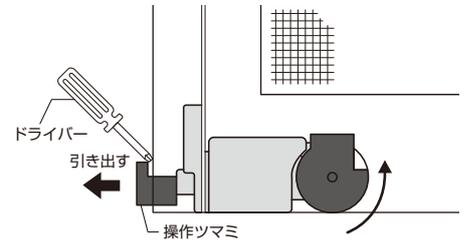
網戸をはめる場合は、逆手順で行ってください。

但し、網戸がはめられない、又は網戸戸車がこわれるおそれがありますので、下記の確認をお願いします。

戸車が網戸から出ていないか確認してください。出ている場合は、操作ツマミをドライバーなどで引き出してください。戸車が網戸に収納されます。



操作ツマミをドライバーなどで引き出してください。



## 2. 窓シャッター

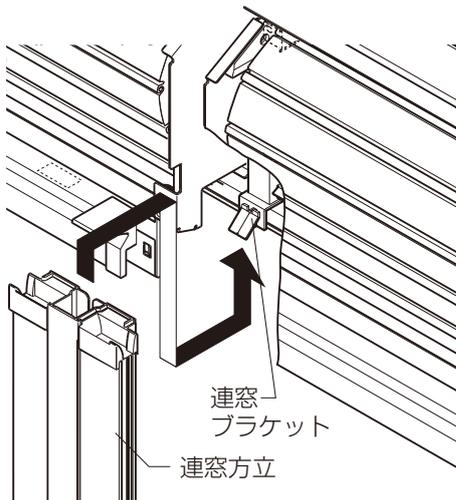
※ご使用の際は商品に貼ってあるラベルもよくお読みの上、正しくお使いください。  
 ※電動タイプは専用の取扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

### ▲ 注意

- 開閉の際は周囲に人・物がないことを確かめてから開閉してください。はさまれてケガをしたり、物をはさんだりするおそれがあります。
- 開閉中は開閉位置に顔や手を出さないでください。はさまれてケガをするおそれがあります。



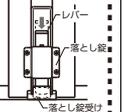
- 連窓方立の取付け後に、落とし錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かくれるまでレバーを下げ、落とし錠受けに固定されていることを確認してください。固定されていない場合、脱落して人身事故や物損事故のおそれがあります。
- シャッターボックスに、はしごをかけたり、上に乗ったりしないでください。変形および故障、転落や負傷のおそれがあります。
- シャッターボックスに雪が30cm以上積もった場合は、必ず、取り除いてください。変形および故障につながります。また、その際は足場をしっかりと確保して作業してください。転落・負傷するおそれがあります。
- 連窓方立の上部が連窓ブラケットに差込まれていることを確認してください。差込まれていない場合、脱落して人身事故や物損事故のおそれがあります。



#### 連窓方立の操作について

##### ▲ 注意

##### 【レバーのかけ方】



- 取付けの際は、レバーを『閉』の位置まで下げてください。
- 連窓方立が外れ、事故になるおそれがあります。

##### 連窓方立の外し方

※この連窓方立は下記手順にて外せます。

- ①シャッターを全開にします。
- ②レバーを上げます。(上図参照)
- ③連窓方立を持ち上げます。

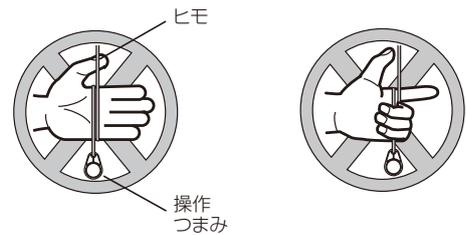
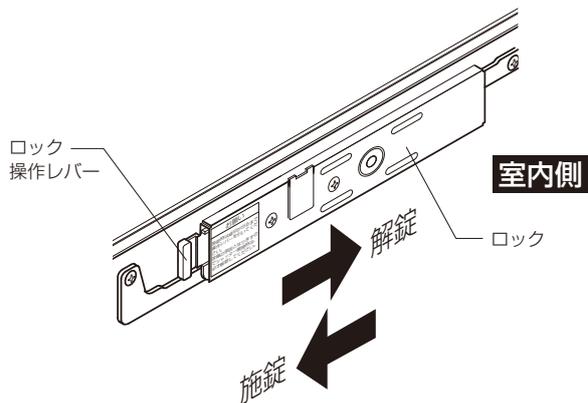


- ④連窓方立の下部を室外に押しながら⑤外します。

※取付けは、逆の要領で行ってください。

## お願い

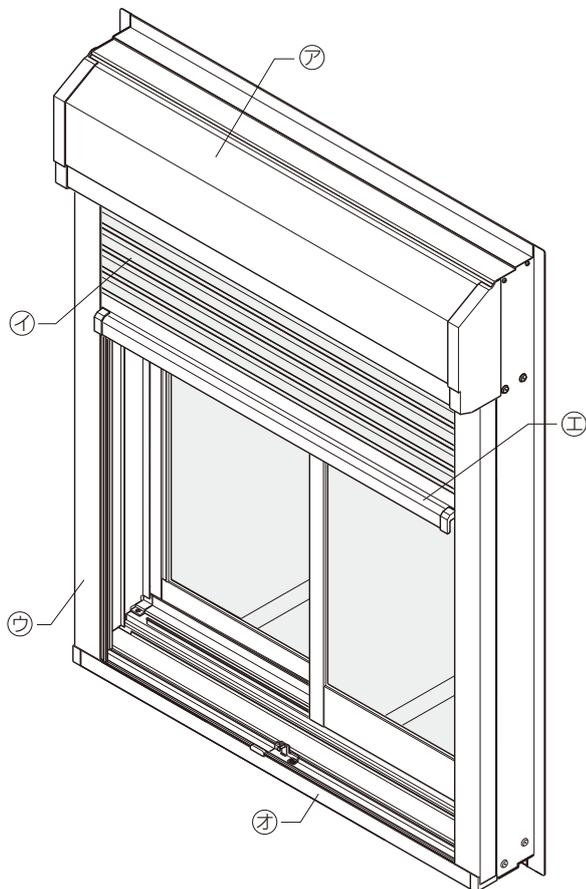
- おやすみ、外出、強風・雨の際は、シャッターを閉めるだけでなく必ず内側のサッシも施錠してください。
- シャッターが凍結したときは、必ず溶けてから操作してください。無理な作動は故障や破損の原因になります。
- 水切り先端部に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。無理な重さをかけると破損の原因になります。
- ゆっくり開閉してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。
- 幅木の端の方を持って開閉をつづけないでください。スラットが斜めに巻き上がったり、こすれ音が出る等、故障や破損の原因になります。解錠レバーは、幅木の両端から1/6では操作できません。
- 操作つまみは、開口の1/6の距離よりもガイドレール寄りに移動させないでください。作動不良の原因になります。
- 操作つまみを持って開閉をする際に、ヒモに指や手をからめて操作しないでください。思わぬケガをするおそれがあります。
- 操作つまみをスラットに張り付けたまま、シャッターを開けないでください。スラットが斜めに巻き上がったり、スラットにヘコミが発生したりすることがあります。
- シャッターの開閉時は必ず解錠してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。
- 換気スラットの通気孔は閉めることができません。強風や雨の際は、必ず内側のサッシを閉めてください。風や雨水が室内に入ります。また、換気孔から外の光が入りますので、遮光カーテン等をご使用ください。
- 雨などで濡れている場合、水滴が落ちることがありますので、ゆっくり開閉してください。
- シャッターを閉めても外からの光を完全に遮ることはできません。必要に応じて遮光カーテンなどの併用をお願いします。



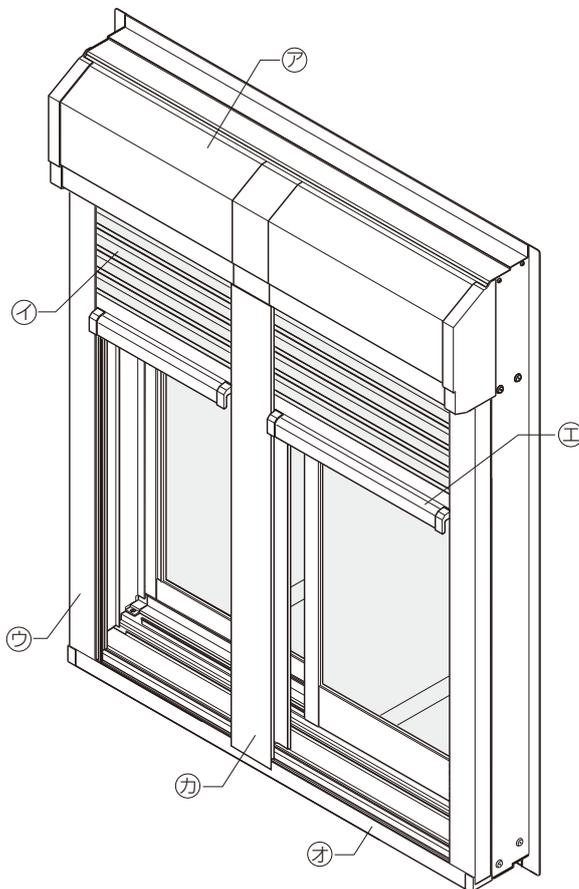
## 各部のなまえとはたらき

●「窓シャッター」の各部のなまえとはたらきを説明します。

〔単窓の場合〕



〔連窓の場合〕



## ●本体各部のなまえとはたらき

記号	なまえ	はたらき
ア	シャッターボックス (点検口)	スラットなどを収納する部分です。 スラットなどの点検口です。
イ	スラット	カーテン部分です。
ウ	ガイドレール	両側にあり、スラットの動きを誘導します。
エ	幅木	スラットの最下部で、ロックが組込まれています。
オ	水切り	底の部分で、雨水などを流します。
カ	連窓方立	連窓中央部にあり、スラットの動きを誘導します。

## 窓シャッターの開け方・閉め方

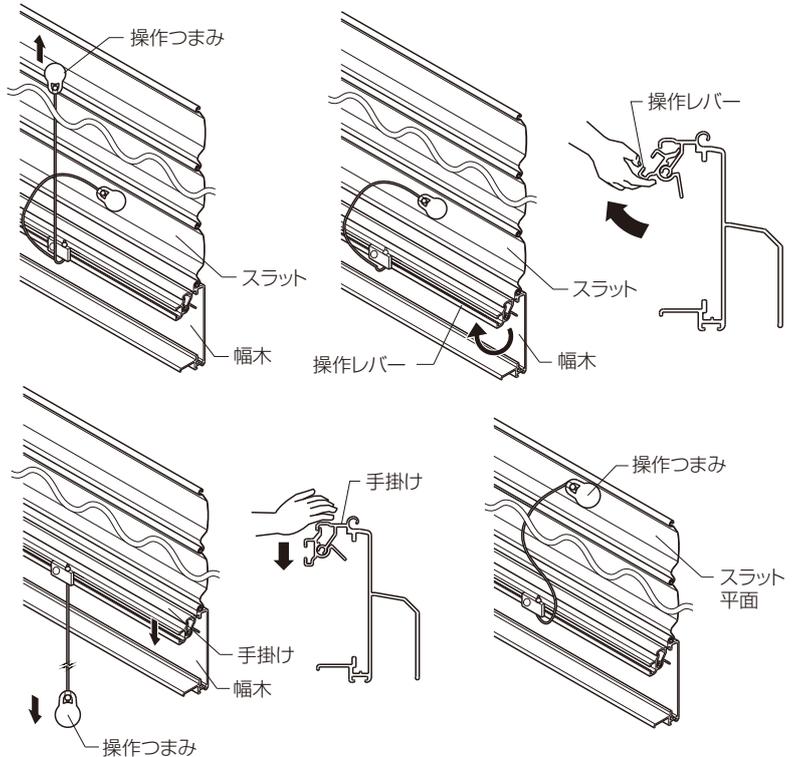
幅木の室内側に操作つまみがついている場合  
 ※品種により操作レバーがないものもあります。

### 「窓シャッター」の開け方

- ①幅木の室内側についている、操作つまみを引き上げるか、操作レバーを室内側に回転させて解錠し、ゆっくりと開けてください。
- ②開けた後は、操作つまみを垂らしておくか、一番下のスラットに張付けてください。

### 「窓シャッター」の閉め方

- ①操作つまみを引き下げて幅木の手掛けを持ち、ゆっくりと閉めてください。  
 ※施錠されていることを確認してください。
- ②閉めた後は、操作つまみをスラット平面に横向きに張付けておいてください。



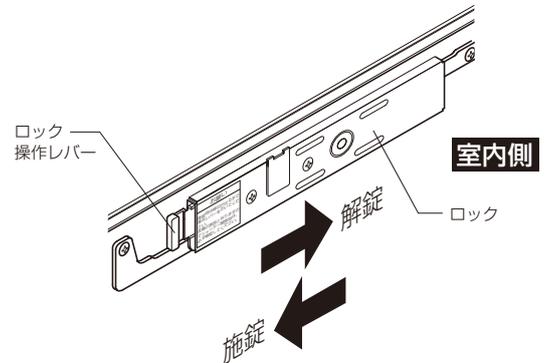
スラット中間部にロックがついている場合

### 「窓シャッター」の開け方

- ・中間部の室内側についている、ロック操作レバーを横に引いて解錠し、ゆっくりと開けてください。

### 「窓シャッター」の閉め方

- ①幅木を手で持ち、ゆっくりと閉めてください。
- ②閉めた後は、ロック操作レバーを横に引いて施錠してください。  
 ※施錠時は緑印が出るまでロック操作レバーを引いてください。



## ▲ 注意

- 開閉の際は周囲に人・物がいないことを確かめてから開閉してください。はさまれてケガをしたり、物をはさんだりするおそれがあります。
- 開閉中は開閉位置に顔や手を出さないでください。はさまれてケガをするおそれがあります。

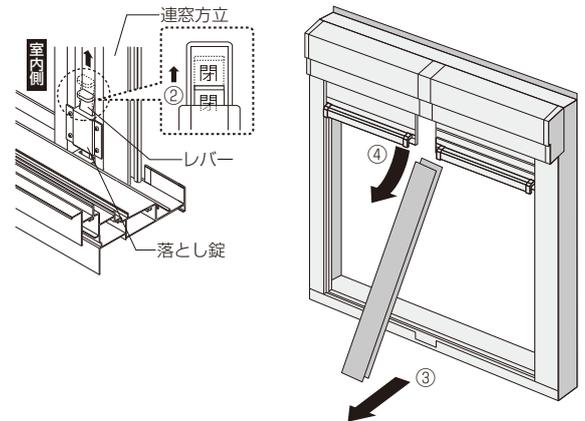
### お願い

- おやすみ、外出、強風・雨の際は、シャッターを閉めるだけでなく必ず内側のサッシも施錠してください。
- ゆっくり開閉してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。
- 幅木の端の方を持って開閉をつづけないでください。スラットが斜めに巻き上がったたり、こすれ音が出る等、故障や破損の原因になります。操作レバーは、幅木の両端から1/6では操作できません。
- 操作つまみは、開口の1/6の距離よりもガイドレール寄りに移動させないでください。作動不良の原因になります。
- 操作つまみを持って開閉をする際に、ヒモに指や手をからめて操作しないでください。思わぬケガをするおそれがあります。
- 操作つまみをスラットに張り付けたまま、シャッターを開けないでください。スラットが斜めに巻き上がったたり、スラットにヘコミが発生したりすることがあります。
- シャッターの開閉時は必ず解錠してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。

## 連窓方立の取外し方・取付け方

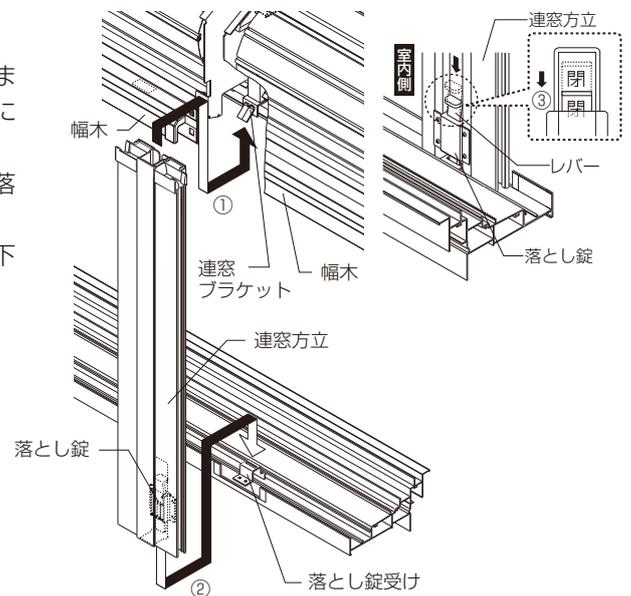
### 「連窓方立」の取外し方

- ①「窓シャッター」を開けた状態にします。
- ②連窓方立の室内側下部についている落とし錠のレバーを引き上げます。
- ③連窓方立の下部を室外側に押し出します。
- ④連窓方立を下方向に下げて、上部から引き抜きます。



### 「連窓方立」の取付け方

- ①幅木を引き下げて、連窓方立の上部に左右の幅木を差込みます。そのまま連窓方立を押し上げ、その上部を連窓ブラケットに差込みます。
  - ②連窓方立の下部を室内側に引き込み、落とし錠のレバーを下げ、落とし錠受けに固定します。
- ※落とし錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かかれるまでレバーを下げ、落とし錠受けに固定します。



## ▲ 注意

- 連窓方立の取付け後に、落とし錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かかれるまでレバーを下げ、落とし錠受けに固定されていることを確認してください。固定されていない場合、脱落して人身事故や物損事故のおそれがあります。
- 連窓方立の上部が連窓ブラケットに差込まれていることを確認してください。差込まれていない場合、脱落して人身事故や物損事故のおそれがあります。

## 点検

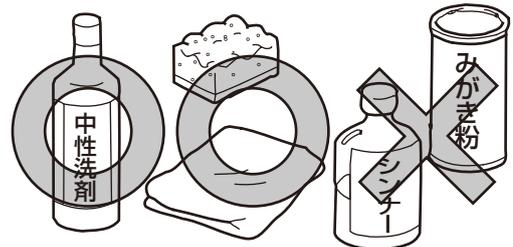
- 「窓シャッター」は少なくとも1ヶ月に2～3回開閉をしてください。長期間動かさないとスムーズに作動しなくなるおそれがあります。
- 「窓シャッター」を安全にご使用いただくため、下記の点検をおこなってください。点検を行い作動不良や異常がありましたら、お買い求めの工務店・販売店または当社営業所へご連絡ください。

### ●点検箇所

点検部分	点検内容
ガイドレール部 スラット部	作動がスムーズに行えないようなキズ・曲がりなどの変形、異常音はないか。

## お手入れのしかた

- 「窓シャッター」下部の水切り部やガイドレール内部は常に清掃し、異物などがないようにしてください。開閉が重くなったり、破損するおそれがあります。
- 「窓シャッター」の開閉力は、年月と共に重くなってきます。これは各部への砂・チリ汚れなどの付着や摩耗によるものです。お手入れの仕方に基づいてお手入れをしてください。
- 「窓シャッター」はアルミニウム及び鋼板で作られています。スラット表面についたゴミやホコリ、砂や雨水などは腐食・作動不良などの原因になりますので定期的に掃除してください。
- 長期間、清掃しないままにしておきますと、表面やガイドレール内部に付着した汚れは、しみ、腐食、作動不良等の原因になります。汚れが軽いうちに清掃してください。  
清掃の目安は、少なくとも月に一回程度です。  
特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスによる汚損が進みやすいので、こまめにお手入れしてください。



### お願い

- お手入れには柔らかい布・スポンジを使用し、金属製ブラシ・金べらなどを使用しないでください。
- 洗剤は、必ず中性のものを使用してください。

- ①スラット表面に付いたゴミやホコリ、砂や雨水などを取り除いてください。
- ②ガイドレール内部や水切り部についたゴミやホコリ、砂や雨水などをふき取ってください。隅の方は、歯ブラシ・洋服ブラシなどで掃除してください。



- ③以下の要領で汚れを落としてください。

〔あまり汚れがひどくない部分〕

- ・ぞうきんで水ぶきした後、からぶきしてください。

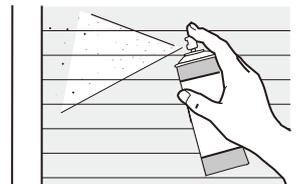
〔特に汚れがひどい部分〕

- ・うすめた中性洗剤で汚れを落とし、洗剤が残らないようぞうきんでよく水ぶきした後、からぶきしてください。



- ④鋼板部にサビがでた場合

- まず、目の細かい紙ヤスリなどでサビを完全に落とします。そして市販のスプレー式ラッカーを吹き付けてください。その時、スラットのかみ合っている部分など可動部にかからないよう注意してください。



## 「窓シャッター」が動かない場合

- シャッターが動かない場合は、表に従って処置をしてください。

ここをお調べください	処置のしかた
ロックが施錠になっていませんか？	ロックを解錠してください。
ガイドレールに障害物はありませんか？	障害物を取り除いてください。
ガイドレール・スラットなどが変形していませんか？	変形している場合はただちに「窓シャッター」の使用を中止し、お問い合わせの工務店・販売店又は当社営業所へご連絡ください。
シャッターが凍結していませんか？	凍結している場合は、溶けるまで待つてから作動させてください。無理に作動させると故障の原因となります。

# 第3章 お手入れ方法(清掃方法)

商品はアルミニウムのほか樹脂、木などによって構成されています。

いつまでも美しく商品をお使いいただくために、それぞれの性質に応じた方法で、定期的なお手入れが必要です。

## 1. アルミ製商品のお手入れ

### お掃除はなるべくマメに

アルミは比較的腐食しにくい材質ですが、それでも砂、ホコリ、塩分などがついたまま長いあいだ放置しておくと、空気中の湿気や雨水の影響を受けて、腐食が発生する原因になります。汚れが軽いうちに清掃してください。清掃の目安は、少なくとも年に1~2回程度です。特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスによる汚損が進みやすいので、こまめにお手入れしてください。

### お手入れ方法

- ①表面についた砂やホコリをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
- ②水でぬらした柔らかい布又はスポンジで全体の汚れをふき取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、そのあと水洗いします。(※電装部品には水がかからないようにしてください。)
- ③最後に、かたく絞った柔らかい布又はスポンジで全体をふき取ります。



### お手入れのご注意

- 洗剤や薬品は、中性のものを使用してください。酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、及びアルコール以外の有機溶剤はアルミサッシやステンレスなどの金属部分を腐食させたり、塗膜はがれを引き起こしますので、絶対に使用しないでください。
- お手入れの際には柔らかい布又はスポンジなどを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
- 表面の光沢やツヤが落ちてきた時には自動車用ワックス(研磨材の少ないもの)を使いメンテナンスを行ってください。光沢やツヤが回復します。
- ①ホワイト色にはホワイト専用のワックスをお使いください。
- ②ブロンズ色にはホワイト以外のワックスをお使いください。
- ③ツヤ消しのアルミサッシには表面のツヤにムラができますのでワックスは使えません。
- マジックインクなどが附着した時にはアルコールで軽くこすって除去してください。



## 2. 樹脂製商品のお手入れ

断熱商品には性能を高めるため、枠および障子が樹脂で作られているものがあります。

樹脂の中でも特に酸、アルカリに対して強い材質を選択していますが、長く快適に使用していただくために、樹脂製商品に対して注意すべき点があります。

### お掃除はなるべくマメに

樹脂商品の場合、レール部分にたまった砂やゴミをそのままにして使用を続けると、傷の原因となりますので、なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

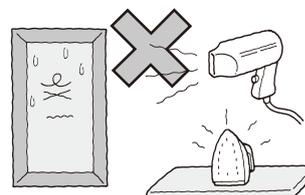
### お手入れ方法

- ①表面についた砂やホコリをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
- ②水でぬらした柔らかい布又はスポンジ・市販のメラミンフォーム材などで全体の汚れをふき取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤で汚れを落とし、そのあと水洗いします。
- ③最後に、かたく絞った柔らかい布又はスポンジで全体をふき取ります。



### お手入れのご注意

- 洗剤や薬品は、中性のものを使用してください。酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品及びアルコール以外の有機溶剤は樹脂部材を溶かしたり、表面と塗装のはがれを引き起こしますので絶対に使用しないでください。
- お手入れの際には柔らかい布又はスポンジ・市販のメラミンフォーム材などを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
- 樹脂製品にストーブ、ドライヤー、アイロンなどを近づけたり、接触させないでください。
- マジックインクや塗料が附着すると落ちなくなりますのでご注意ください。



### 3.木製商品のお手入れ

#### お手入れ方法

- ①表面についた砂やホコリをていねいに取除きます。
- ②乾いた布などで乾拭きしてください。
- ③年に数回程度、かたくしぼったぬれ雑巾で表面を拭いた後、乾拭きしてください。

#### お手入れのご注意

- 洗剤や酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品及び溶剤は木材へのシミや変色を引き起こしますので絶対に使用しないでください。
- お手入れの際には柔らかい布などを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
- マジックインクや塗料が附着すると落ちなくなりますのでご注意ください。



#### 設置場所について

- エアコンの風に直接あたりすぎると木材が変形するおそれがあるため、ご注意ください。
- 加湿器の蒸気が直接あたると木材が変形するおそれがあるため、加湿器の設置場所にご配慮ください。
- 木材が直射日光に長時間あたりすぎると、経年変化の促進につながるため、軒や庇の設置をご検討ください。

### 4.網戸のお手入れ

網戸もときどきお手入れし、きれいな状態でご使用ください。

#### お手入れ方法

- 網戸をはずし、室内側の面を下にして床に置き、柔らかい布又はスポンジ、ブラシなどで水洗いしてください。油汚れがひどい場合には、水で薄めた中性洗剤をつけた柔らかい布またはスポンジで軽く拭いてください。

#### お手入れのご注意

- 室内側の面を上にしたたり、網戸をたてたまま洗うと、網が押されて緩んだり、破れたりするおそれがありますので、必ず室内側の面を下にして掃除してください。

### 5.ガラスのお手入れ

外観を美しく保つために、数ヶ月に1回以上お手入れを行ってください。

#### お手入れ方法

- ガラス面のお手入れは、室内外とも一般的な水ぶきをおすすめします。汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を使用しその後水で洗い流してから拭いてください。

#### お手入れのご注意

- 万が一ガラス表面に傷がつくと割れるおそれがありますので、お手入れの際には必ず柔らかい布をご使用ください。
- 表面に傷がついてしまったり、欠けやヒビが発生しましたら、お早めにお取扱いのビルダーさま、販売店さまにご相談し、すみやかにガラスを交換してください。

# 第4章 商品のご使用にあたって

## 1. 窓の結露について

### ■結露についての注意

結露が発生した場合は、床や壁の汚損防止、木部や壁の腐食防止の為に、こまめに拭き取ってください。

窓ガラスやサッシ部分の結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合に、自然現象として季節を問わず発生します。したがって断熱サッシを使用しても室内外の条件によっては結露が発生する場合があります。

また、新しく建てた家は、木材などがまだ多く水分を含んでおり、室内にも多くの水蒸気を放出します。

その為、室内の湿度が高くなりやすく、窓などに結露が発生しやすくなります。

### ■結露を抑えるには

結露を抑える為には、低温部分を作らず、室内の湿度をできるだけ低くすることが大切です。

どちらか一方だけに気をつけても結露は防ぐ事はできません。

### ①低温部分を作らない為に

断熱材や、断熱型サッシを使用して壁や窓の表面温度をできるだけ室温に近づける事が大切です。

シャッターや雨戸がある場合にはこまめに閉めるように心がけましょう。

また、室温は適温に保つように心がけましょう。

(冬20℃～23℃、夏25℃～28℃)

### ②湿気を抑えるには

人が快適と感じる湿度は40～60%と言われています。

この快適な湿度を保つ為にも水蒸気の発生を抑えましょう。具体的には以下の事に気を付けてください。

- ・室内で洗濯物を干さない
- ・浴室の入り口の戸を開け放しにしない。
- ・加湿器の使用は控えめに
- ・水蒸気の発生しない暖房器(エアコン、電気ストーブ)や密閉型の暖房機(FFストーブ)を使用する。

また、換気扇、窓を開けるなどして十分換気を行いましょう。湿った空気を外に出す事で室内の湿度はぐっと下がります。



## 2. 窓シャッターについて

- シャッターを閉めた状態で、強風によりスラットがバタツキ、音がしたりすることがありますが異常ではありません。
- スラットの表面が、雨などに濡れている状態でシャッターを開閉操作すると、水滴が落ちてくる場合がありますので、静かに開閉してください。これはシャッターを巻き上げたとき、スラット同士が重なることで表面についた水が内側につく為です。
- シャッターを閉めた状態でも、スラットの内側が濡れることがあります。これはスラットの表面に横向き風雨が当たった場合、スラットの表面から内側に水が伝わるためです。品質に問題はありませので安心してお使いください。
- スラット重量と巻取り軸に内蔵のスプリング力でのバランスをとる構造になっております。商品の特性上、バランス状態により開閉力が一定ではありません。
- 開閉力は年月と共に重くなってきます。これは各部への砂、チリ汚れ等の付着や摩耗によるものです。
- シャッターを閉めても各部のすきまから、外からの光が入ることがあります。さらに光をさえぎる場合は、遮光カーテン等をご使用ください。

---

### 3. 二重サッシの雨水の浸入について

二重サッシで窓を閉める場合は必ず外窓、内窓両方を閉めてご使用ください。  
外窓を開放し、内窓のみを閉じている場合に雨が降って枠に雨がかけますと漏水がおきる危険性があります。

### 4. 窓を閉めきった時のすき間風について

窓を閉めきった時、窓のすき間を防ぐためにパッキンなどの気密部品を取付けていますが、強風時には室外と室内に気圧の差が生じ、気密部品の接触部分から空気が入りし、すき間風が発生することがあります。  
また、換気扇を使用した場合は強制的に空気を室外に排出することになるので、気密材と枠または障子の接触部分から空気が入ることがあります。  
これらの現象は窓の構造上完全になくすことはできません。

### 5. 強風時、換気扇使用時の笛鳴り現象について

窓やドアを閉めきった状態で換気扇を使用した場合、強制的に空気が室外に排出されるとともに、同じ量の空気がサッシのすき間などから室内に入りこもうとします。その時、気密部品と枠または障子の接触部分を通りぬける空気が、笛を吹く状態と同じ現象を起こすこととなります。  
また、強風時においても、サッシの気密部品と枠または障子との接触部品から空気が通り抜けるので、換気扇を使用したときと同様に笛鳴り現象を起こすことがあります。これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。  
これを笛鳴り現象(風なり音)といいます。

### 6. ステンレスの錆について

ステンレスは表面に独自の保護皮膜が形成され、この皮膜は空気中の酸素が触れている間は、優れた耐食性を示す性質を持っていますが、表面が汚れてくると酸素との接触が妨げられるので錆が発生することがあります。  
例えば「塩素系の洗剤がステンレス部品に付着した場合」「沿岸沿いなどの環境において塩分が付着した場合」などに錆が発生します。また、鉄くぎの錆がステンレス表面に付着した場合に発生する「もらい錆」といわれるものがあります。  
錆は台所用クレンザー、市販のステンレス用清掃薬剤などでこすり落としてください。この場合表面にこすりキズがつくことは避けられません。「もらい錆」が落ちない場合は、錆が進行しステンレス自身に錆が生じたものと考えられます。  
一旦発生した錆は落とすことが難しいので、日頃から中性洗剤でこまめにお手入れをしてください。

### 7. ガス給湯器などの排気ガスによる腐食について

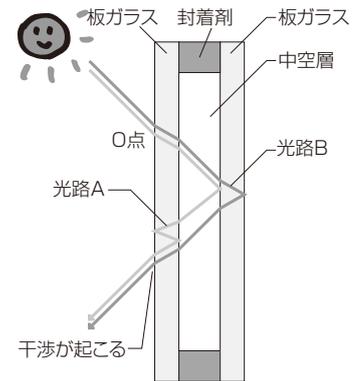
アルミ製品の塗膜の剥がれなどの表面異常は、ガス給湯器などからの排気ガスが原因になっていることがあります。ガス給湯器などの排気ガスの成分には、微量ながら硫黄分が含まれている場合があり、この硫黄分が空気中や排気ガスの水分と化学反応を起こして、亜硫酸・硫酸のような強い腐食性の酸を作ることがあります。これらの酸が塗膜表面に付着し、長期間のうちに塗膜自体を劣化させ、塗膜の下に侵入し、アルミと化学反応を起こすことによって、塗膜剥がれなどの表面異常の原因となることがあります。  
ガス給湯器および車の排気ガスが直接アルミに当たらないようにご注意ください。また直接ではなくても、周辺の通気が悪く排気ガスが滞留するような場所にアルミを使用した場合でも塗膜の剥がれなどの表面異常が発生する場合があります。排気口付近にアルミ製品を設置する場合は、排気ガスが直接当たらないようにしていただくか、こまめにお手入れしていただくとともに周辺の通気を確認した上でご使用をお願いします。

## 8. ガラスについて

構成されるガラス種類によって、下記のような現象が見られることがあります。十分にご理解いただき、ご使用ください。

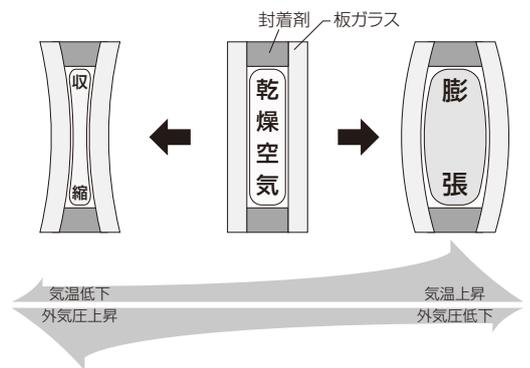
### ●干渉縞

右図のO点から複層ガラスに入射した光が、分割され、A、B別々のコースを反射・屈折をしながら進んだ後に再び出会って、光の干渉が起こります。これが連続して起こることにより、ガラス表面に虹のような「干渉縞」が見えることがあります。



### ●ゆがみ

複層ガラスは、2枚の板ガラスの間の中空層に気体を密封しております。その中空層内の気体が、気温・外気圧の変化により膨張・収縮します。この膨張・収縮により、板ガラスが膨らんだり凹んだりし、ガラス表面の反射映像がゆがんで見えることがあります。特に、Low-Eガラスを用いている高断熱複層ガラスや遮熱高断熱複層ガラスは、反射率が高く映像が写りこみやすいため、ゆがみが目立つことがあります。また強化ガラスは、熱処理の影響により、一般の透明ガラスと比較してゆがみや透視ひずみが目立つことがあります。またガラスの膨らみにより、窓の開閉の際に当たりや擦れが生じることがあります。この現象は一時的なものですので、室内外のガラスの気温・外気圧差が無くなることで解消されます。性能や強度への影響はありません。



### ●ヤケ(風化)

板ガラスの表面に水分が長期的にわたって付着すると、大気中物質と反応し板ガラスの表面状態が化学変化を起こすことがあります。これによりガラスの光沢がなくなり曇ったような状態になったり、薄膜が形成され光の干渉を起こし虹色に見えることもあります。これらの現象をガラスのヤケ(風化)と呼んでいます。

浴室などの高温多湿の場所、大気汚染物質が多い場所(都市部や工業地帯)、海岸や湖の近くで潮風やモヤにさらされる建物など、湿潤の繰り返しが多い場所に比較的発生しやすくなります。

一度、この現象が生じてしまうと除去することは非常に困難となります。ヤケを防止するにはこまめなお掃除をおすすめします。

### ●熱割れ

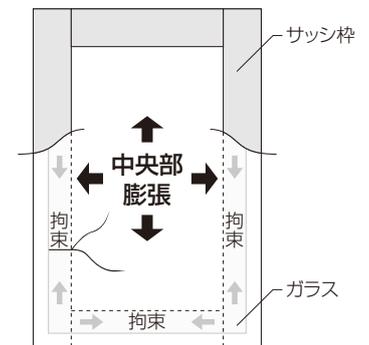
窓にはめ込まれたガラスが太陽光があたることにより、その熱で割れることがあります。これを「熱割れ」と呼んでいます。窓ガラスに直射光を受けると、照射された部分は吸熱のため高温となり膨張します。一方、周辺のサッシにのみ込まれた部分や、影の部分はあまり温度上昇せず、低温のままとなります。この低温部は高温部の熱膨張を拘束し、結果としてガラス周辺部に引張応力が発生します。この熱応力は被照射部と周辺部との温度差、すなわち板内温度差に比例し、ガラスのエッジ強度をこえる引張応力が発生すると熱割れとなります。この現象はガラスの特性として、不可抗力的に発生します。

熱割れによりガラスが割れた場合には、下記を参考に対策を行ってください。

割れ方の特徴として、ガラスのエッジ部から直角に始まり、それから蛇行しています。

## ●熱割れの防止

- ・室内側に熱だまりができ、ガラスが高温となるような部位への取付けは避けてください。
- ・ガラス面への日射が均一でなく部分的に日陰ができるとガラス板内の温度分布が変わり、影のない場合に比べて発生熱応力が大きくなり、熱割れが発生しやすくなります。このような部分への取付けは避けてください。
- ・冷暖房の吹き出し空気や熱を直接ガラスに当てたり、強い照明を当てたりしないでください。
- ・ガラス面に紙やフィルムを貼ったり、ペンキを塗ったりしないでください。その部分の日射吸収率が極端に大きくなります。
- ・室内側ガラスの全面もしくは一部にカーテンやブラインドなどの遮蔽物を密着させないでください。また、座布団や、置物などをガラス面にたてかけないでください。
- ・網入り板ガラスは、金属網がガラスに封入されているため、切断時にガラスの切り口にキズが付きやすく、許容応力が一般の板ガラスの半分程度になっているため、熱割れがより起こりやすくなります。



## ●その他

- ・遮熱高断熱複層ガラスや高断熱複層ガラスは特殊金属膜により、携帯電話など電波機器のご使用時に障害がでる場合があります。特に、建物の構造や外壁が電波を通しにくい場合はご注意ください。
- ・ガラスに貼り付けてあるラベルは、結露水、熱、紫外線などにより、はがれたり、色褪せしたりすることがあります。
- ・刻印部分に異物が付着したまま指先などでこすった場合、異物が思わぬケガの原因となりますのでご注意ください。
- ・中空層の内圧変化の影響により、封着剤が中空層に入り込むことがあります。
- ・防犯合わせ複層ガラスは、サッシ枠内に侵入した結露水や雨水などの水分により、ガラスの周辺部が白く濁ることがありますが機能上問題ありません。

# 第5章 窓の基本性能について

窓やドアについて説明します。

## 1. 水密性

JIS等	圧力差	(参考)風速換算値
W-1	100Pa	風速は 9~15m/sに該当します。
W-2	150Pa	風速は11~19m/sに該当します。
W-3	250Pa	風速は14~24m/sに該当します。
W-4	350Pa	風速は16~29m/sに該当します。
W-5	500Pa	風速は20~35m/sに該当します。

※WはWaterの頭文字です。

必要等級の目安

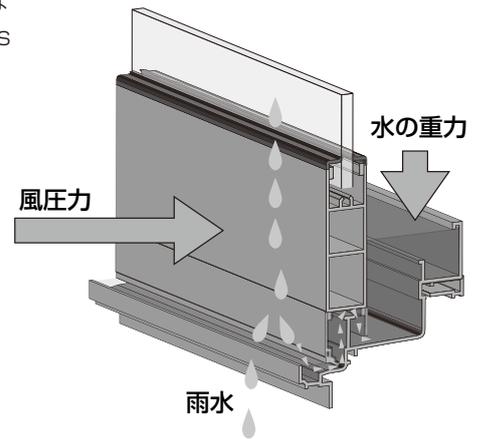
水密性能の JIS等級	W-1	W-2	W-3	W-4	W-5
選択の目安	市街地住宅		郊外住宅		
			低層ビル		
			中高層ビル		

※上表は一般的な地域における目安です。建物の立地条件、使用条件等によって異なります。

一般的に戸建ての場合、JIS 等級の目安として W-2、W-3 等級が必要となってきます。W-3 等級は、1 時間あたり 240mmの降雨時に風速 20m / s 程度の風が吹いてもサッシからの雨水浸入がないということになります。気象庁からの天気概況で風速が性能表示以下であったとしても、住宅の立地条件（近隣住宅の配列や高さ、道路の状況、立ち木や塀の位置など）により局所的に発表数値を超え、屋内への雨水浸入が考えられます。そのため、より高い等級のものを選定したり、雨戸や窓シャッターを併用すると効果的です。

水密性の等級は、過去の気象データを見ると、一般的に“風が強いと雨が少なく”・“雨が多いと風が弱い”という傾向が見られるため、耐風圧性の風圧より低く設定されています。

雨水浸入の判断は窓枠を越えて屋内に雨水が入ることとされています。強風雨時にサッシ下枠に雨水がたまることありますが、これは一般的なサッシの構造上、水密性能を保持するためであり、不具合ではありません。



## 2. 気密性

JIS等級	気密等級線	(参考)対応サッシドア
A-1	A-1等級線	室内建具など
A-2	A-2等級線	防音サッシ・ドア群
A-3	A-3等級線	断熱・防音サッシ・ドア群
A-4	A-4等級線	

※AはAirの頭文字です。

気密性が良いと

- 1 冷暖房における熱負荷が少ない。 → 省エネルギーにつながる
- 2 内・外部騒音における遮音性が良くなる。 → 静けさにつながる
- 3 外部からの塵埃、粉雪の吹込みが少ない。 → 快適な環境につながる

風が吹くと室内外に気圧差が生じ、気密部品の接触部分からすき間風が生じます。このすき間風を規制する性能を気密性能といいます。A-3 等級とは、風速 4 m / s 程度の風（=木の葉や小枝が休みなく動く程度の強さ）が正面から窓に当たっているときに、窓表面 1㎡あたりに 1 時間 8m<sup>3</sup>（= 1 辺が 2m の立方体）以下の空気が入り出す性能です。サッシのすき間から入り出す空気の量が少ない方が性能が良いということになります。したがって、気密性が高いことにより、冷暖房における負荷を軽減するので、省エネルギーとも密接に関連し、また、遮音性能も向上します。

ただし、気密性\*とは逆に換気不十分による問題も生じることがありますので、定期的な換気や換気設備の設置等の配慮が必要です。

\* 日本工業規格（JIS）では、空気の入りを遮断しなければならないという規定はありません。

## 3. 断熱性

住宅においては、開口部がもっとも熱の出入りが大きいと言われてます。快適な住まいを実現するためには、窓の断熱化が重要となってきます。

断熱性は、JIS では H-1 等級から H-5 等級で区分され、熱貫流抵抗 (R) の単位 (㎡・K / W) で表示されます。断熱性能を表す数値としては、熱貫流抵抗や熱貫流率が使われます。熱貫流抵抗とは、熱貫流率の逆数 (1 / 熱貫流率)

で熱の移動のしにくさを表しています。熱貫流抵抗が大きいほど熱が移動しにくいので断熱性能は良いということになります。熱貫流率とは内外の温度差が 1℃の時、窓面積 1㎡あたり 1 時間にどれくらいの熱が移動するかを表す数値のことです。熱貫流率が小さいほど断熱性能が良いということになります。住宅サッシの断熱性はサッシおよびガラスの構造、材質、開閉形式等の組合せにより異なり、これらの建具の構成による断熱性能および対応する地域区分については、後頁“省エネルギー基準について”をご参照ください。窓を断熱化することで、熱を逃がにくく、室内へ入りにくくすれば、冬の暖房エネルギーは少なく済みすし、夏の冷房エネルギーもグンと減らせます。また、常時強風が吹付ける地域や建物の向きによっては、窓等の断熱性を高める内窓、雨戸、シャッター、室内カーテン、ブラインド等の併用も考慮してください。

JIS等級	熱貫流抵抗	(参考)熱貫流率
H-1	0.21㎡・K/W以上	4.7W/(㎡・K)以下
H-2	0.24㎡・K/W以上	4.1W/(㎡・K)以下
H-3	0.29㎡・K/W以上	3.5W/(㎡・K)以下
H-4	0.34㎡・K/W以上	2.9W/(㎡・K)以下
H-5	0.43㎡・K/W以上	2.3W/(㎡・K)以下
H-6	0.53㎡・K/W以上	1.9W/(㎡・K)以下
H-7	0.67㎡・K/W以上	1.5W/(㎡・K)以下
H-8	0.91㎡・K/W以上	1.1W/(㎡・K)以下

※HはHeatの頭文字です。

## 4. 遮音性

JIS等級	遮音等級線	住宅性能表示制度等級区分
T-1	T-1等級線	等級2
T-2	T-2等級線	等級3
T-3	T-3等級線	等級3
T-4	T-4等級線	等級3

※ TはTransmission Lossの頭文字です。

防音に配慮した戸建て住宅では、一般的に JIS 等級での目安として T-1、T-2、T-3 の性能の窓が使用されます。

例えば T-2 等級ですと外部が 80dB (デシベル) あった場合、内部では 50dB 以下 (= 静かな事務所程度) になるということになります。これはあくまで基準としての窓の遮音性能であり、実験室と実際の住宅では窓以外のすき間の有無や天井・壁・床など空間の条件が異なりますので、カタログなどに記載している窓の遮音性能値と、お住まいで実測する数値とは異なります。

住宅に使用される窓や出入り口は、騒音環境等の立地条件を考慮して選定することになります。

- ・ 遮音性はガラスの厚さによって変わりますので、指定の厚さ未満のガラスを使用すると本来の性能がでないことになります。
- ・ 室内の騒音レベルを低くする簡単な対策として、室内に厚地のカーテンやじゅうたんなど、吸音効果のあるものを使用すると効果的です。

騒音レベル dB(A)	騒音環境		遮音性
20	ささやき	きわめて静か	
40	静かな公園	静か	55dB(A)
60	静かな乗用車内	普通 (日常生活で望ましい環境)	T-1 80dB(A)
80	道路の交差点	うるさい	
100	自動車の警笛	きわめてうるさい	
120	ロックバンド	聴力機能障害	
140	ジェットエンジンの近く		

## 5. 耐風圧性

JIS等級	等級との対応値	(参考)風速換算値
S-1	800Pa	風速は36m/sに該当します。
S-2	1,200Pa	風速は44m/sに該当します。
S-3	1,600Pa	風速は51m/sに該当します。
S-4	2,000Pa	風速は57m/sに該当します。
S-5	2,400Pa	風速は62m/sに該当します。
S-6	2,800Pa	風速は67m/sに該当します。
S-7	3,600Pa	風速は76m/sに該当します。

※ SはStructureの頭文字です。

選択の目安

階高	高さ h	風圧力(C=0.8)	対応するJIS等級
1F	約3m	約 800Pa	S-1
2F	約6m	約 1,200Pa	S-2
3F	約9m	約 1,600Pa	S-3

住宅に使用する窓は、取付ける高さ・立地などを考慮して、十分な性能のものを選定することが大切です。

一般的な戸建て住宅の耐風圧性は、下表程度の性能となります。

ただし、これはあくまでも目安であり住宅の立地条件 (山の上など高い場所に建っているなど) により異なります。

強風や台風で窓中央が風によって押され、変形したり元に戻ったりする状態が見られることがありますが、風がおさまった時にはもとの状態に戻ります。

JIS 基準は均一に力が加わることを想定しているため飛来物などで、ある箇所に集中的に力が加わった場合は破損することもあります。

## 6. 防犯性

官民合同会議の役割について

昨今の侵入窃盗 (強盗) 事件の増加は、大きな社会問題としてクローズアップされています。この侵入窃盗に対する手段の一部として " 防犯性能の高い建物部品 " の早急な開発が大きく求められることとなり、警察庁、国土交通省、経済産業省の支援のもと、平成 14 年 11 月に行政、住宅生産者団体、防犯建物部品関連団体などからなる、官民を横断した " 防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議 " が組織化されました。

防犯建物部品商品とは抵抗時間 5 分以上をクリアした防犯性能の高い開口部ゾーンの建物部品です。

防犯性に関する基準としては、『住宅性能表示制度』における評価方法基準に定められた次の 3 つの対象に対し該当部位が防犯に配慮されているかどうか (判断基準としては " 防犯建物部品 " の使用有無など) を確認します。

a) 住戸の出入り口 b) 地面やバルコニーなどの足場部分から、所定の水平垂直距離に位置する開口部 c) a および b に掲げるもの以外のもの

住宅性能表示制度においては防犯性の等級区分はありません。

※警察庁、国土交通省、経済産業省、防犯建物部品関連団体 (板硝子協会、日本ウインドウ・フィルム工業会、(社)日本サッシ協会、(社)日本シャッター・ドア協会、日本ロック工業会)。

また上記の 4 団体に住宅生産者団体を加えて " 防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議 " が組織化されています。



### 防犯建物部品CPラベル

" 防犯 " = " Crime Prevention " の頭文字 C と P をシンボル化しています。

官民合同会議では、建物部品の防犯性能試験を実施し、試験合格品など、適合性が認められたものを " 防犯性能の高い建物部品目録 " として公表し、共通標準ラベル (CPラベル) が現段階で貼付されています。

# 第6章 アフターメンテナンスについて

## 保証について

保証期間中は、保証の規定にしたがって修理をさせていただきます。

保証期間中でも有料になる場合がありますので「**商品保証について**」の内容をよくご確認ください。

保証期間を過ぎている場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。修理用部品の保有期間が過ぎている場合は、修理ができないこともあります。

## 修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、各商品の『**取扱い説明書**』をもう一度ご確認くださいの上、それでも故障が直らない場合やご不明な点がある場合は、商品をお買い求めの施工店、工務店、販売店又は LIXIL 修理受付センターにご連絡ください。その際、下記のことをご連絡ください。

①ご住所・お名前・電話番号

②商品名・品番

③ご購入日又はご入居日

※分譲住宅（建売）、分譲マンションは建設業者から売主への引渡し日となります。

④故障又は異常の内容

⑤訪問ご希望日

⑥ LIXIL 修理受付センターにご連絡の際は、商品のご購入者様名

## 個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさまおよび流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社の「個人情報保護方針」に記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「個人情報保護方針」をご覧ください。

## 修理の依頼先

- ・お買い求めの取扱い店
- ・製品に表示している連絡先
- ・ LIXIL 修理受付センター ☎ 0120-413-433

## 修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、修理および部品交換・調整などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品代です。

出張料は、修理士を派遣する場合の費用です。なお修理により交換した部品・製品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。

## 修理用部品の保有期間

この商品の修理用部品（商品の機能維持には問題ない範囲内で色やデザインが異なる代替部品も含まれます。）の最低保有期間は、製造打ち切り後 10 年です。電装系部品については製造打ち切り後 7 年、室内建具などの扉・引出しなどの面材については、製造打ち切り後 2 年としております。

※機器類など専用の取扱い説明書があるものは除きます。添付の取扱い説明書をご確認ください。

また、修理用部品の供給が難しい場合は、新シリーズの類似商品を供給させていただくこともありますのでご了承ください。

## 交換用部品について

お客様ご自身でお取替えいただける部品については、LIXIL 公式通販サイトよりご注文いただけます。

●リクシルストア <https://store.lixil.co.jp/>

リクシルストアに掲載のない部品につきましては、

お買い求めの取扱い店又は当社お客さま相談センター ☎ 0120-126-001 にご連絡ください。

# 第7章 商品保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において、お客様がお買い求めの建築会社、工務店、施工店又は販売店（以下「取扱店」といいます）にご相談いただいた場合に、無料修理を行うことをお約束するものです。従って、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間中、製品に故障、損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お買い求めの取扱店にご相談ください。お買い求めの取扱店へご相談出来ない場合には、当社商品相談窓口までご相談ください。

■対象商品 サッシ・ドア商品

■保証期間 施工者よりの引き渡し日（注1・注2）から2年間（電装部品については1年間）

注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。

注2）分譲住宅（建売住宅）・分譲マンションの場合は、建築主様への引き渡し日とします。

※ただし、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」第2条第1項及び第2項に規定する「新築住宅」に取付けられた商品（同法第94条第1項に定める「雨水の浸入を防止する部分」として同法施行令第5条第2項に該当する部分に限る）からの雨水浸入については10年間とします。

■保証内容 取扱説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に商品そのものに不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合は除き無料修理いたします。

なお、強風雨時に、サッシ下枠に雨水がたまる場合がありますが、これは商品上の特性であり不具合ではありません。不具合といえる雨水浸入は、サッシ下枠を越えて雨水が流れ出たり、あふれ出たりすることです。

■免責事項 保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。

- ①当社の手配によらない加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどに起因する不具合  
（例えば、海砂や急結剤を使用したモルタルによる腐食。中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食。工事中の養生不良に起因する変色や腐食など）
- ②お客様の指図による、正規仕様でない特別な仕様にて製作した部分に起因する不具合  
（例えば、サッシ・ドアの防犯性能、使い勝手、操作性の低下など）
- ③表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
- ④建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
- ⑤商品又は部品の経年変化（使用に伴う消耗、摩耗、キズ、木製品のささくれ、ヒビ割れなど）や経年劣化（樹脂部品の変質、変色など）又はこれらに伴うさび、かびなどその他類似の不具合
- ⑥商品周辺の自然環境、住環境などに起因する結露、腐食又はその他の不具合  
（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。ガラスの熱割れ。強化ガラスの自然破損。異常な高温・低温・多湿による不具合など）
- ⑦商品又は部品の材料特性に伴う現象  
（例えば木製品の反り、干割れ、色あせ、木目違い、ふし抜け、寸法変化、腐れ、節・材料の継ぎ目・木目などによる塗装のノリの違い、樹液・ヤニのにじみ出しなど）
- ⑧天災その他の不可抗力  
（例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合又はこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
- ⑨施工当時実用化されていた技術、知識では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合
- ⑩犬、猫、鳥、鼠などの小動物に起因する不具合やキクイムシ、シロアリなどによる虫害
- ⑪引き渡し後の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合  
（例えば、クレセント・錠などの部品が、使用中にがたついたり異音などが発生し、異常が生じたまま使用し続けたことが原因で発生した傷・破損などの不具合）
- ⑫お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部品の取外しを含む）に起因する不具合
- ⑬本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
- ⑭犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

※本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客様相談センターにお問合わせください。

※次のような消耗部品については、雨水侵入に伴う10年間の保証期間中であっても有料となります。（当社の不具合を除く）  
ガラス押えゴム（グレチャン、ビード、ガラスパッキンなど）、気密部品（気密材、気密パッキン、気密ピースなど）、モヘヤ、風止め板、はずれ止め、振れ止め、カバー材、戸当り部品（戸当りパッキン、戸当りキャップなど）、戸車、操作つまみ、排水部品、排煙窓のワイヤー、網戸の網、網押さえゴムなどの合成樹脂部品

※BL認定商品については別途定められた保証期間・保証内容・免責事項によります。

※本商品保証は、日本国内においてのみ有効です。

# 第8章 複層ガラスの保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において、お客様がお買い求めの建築会社、工務店、施工店又は販売店(以下「取扱店」といいます)にご相談いただいた場合に、無料修理を行うことをお約束するものです。従って、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間中、製品に故障、損傷などの不具合(以下「不具合」といいます)が発生した場合には、お買い求めの取扱店にご相談ください。お買い求めの取扱店へご相談出来ない場合には、当社商品相談窓口までご相談ください。

■ **対象商品** LIXILで発売している一般住宅サッシ、ドアに組み込まれた当社製複層ガラス(※)

■ **保証期間** 製造日より10年間  
ただし、垂直に組み込まれない複層ガラス(天窓に組み込まれた複層ガラスなど)は、製造日より6年間

■ **保証内容** 取扱説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に複層ガラスの中空層に結露を生じた場合には、代替品(不具合が生じた当社製複層ガラスが仕様変更・販売終了している場合には同等商品または近似商品)を無償で提供いたします。

■ **免責事項** 保証期間内でも、次の様な場合には保証対象外となります。

- ①当社一般住宅用サッシ、ドア以外にご使用された場合
- ②当社一般住宅用サッシ、ドアの組立および取付説明書に従って組立および施工していない場合  
(当社指定の純正ガスケットおよびセッティングブロックを使用していない場合を含む)
- ③地震、風水害、火災などの天災、人災に起因する場合
- ④使用上の誤りおよび不当な改造や修理に起因する場合
- ⑤複層ガラスに組み込まれた板ガラスに亀裂または損傷がある場合
- ⑥熱割れや、強化ガラス(耐熱強化ガラスを含む)の自然破損
- ⑦複層ガラスの中空層部以外の結露
- ⑧高温または多湿の条件下でご使用された場合  
(温水プール、サウナルームなど、ただし一般浴室は除く)
- ⑨標高1,000m以上でのご使用で、当社と事前に打ち合わせが行われなかった場合
- ⑩表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
- ⑪複層ガラスもしくは、その商品特有の構造上発生しうる現象  
(複層ガラスの干渉縞、ゆがみ、ヤケなど)
- ⑫商品又は部品の経年変化(使用に伴う消耗、摩耗など)や経年劣化(樹脂部品の変質、変色、変形など)、又はこれらに伴うさび、かびなどその他類似の不具合
- ⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合
- ⑭保証対象外であることを事前にご了承いただいている場合
- ⑮複層ガラスに当社所定のマークが表示されていない場合
- ⑯実用化された技術では予測困難な現象に起因した不具合
- ⑰カタログ等に注意事項等として事前に告知されている現象

※複層ガラスに打刻されたマークにより、当社製であること、製造年月日などを確認いたします。

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

※本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取り扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客様相談センターにお問い合わせください。

※次のような消耗部品については、雨水侵入に伴う10年間の保証期間中であっても有料となります。(当社の不具合を除く)  
ガラス押えゴム(グレチャン、ビード、ガラスパッキンなど)、気密部品(気密材、気密パッキン、気密ピースなど)、モヘヤ、風止め板、はすれ止め、振れ止め、カバー材、戸当り部品(戸当りパッキン、戸当りキャップなど)、戸車、操作つまみ、排水部品、排煙窓のワイヤー、網戸の網、網押さえゴムなどの合成樹脂部品

※BL認定商品については別途定められた保証期間・保証内容・免責事項によります。

※本商品保証は、日本国内においてのみ有効です。

# お客さまメモ

●ご購入の際、記入しておかれますと便利です。

施工完了日	年 月 日
施工・工務店	社名 ----- Tel      —      —
販売店	社名 ----- Tel      —      —
お近くの当社営業所	----- 支店・営業所 Tel      —      —
商品名	

## 株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

<https://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトからご確認ください。

商品についてのお問い合わせは、お客さま相談センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00(ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く)

TEL. ☎ 0120-126-001

- 旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は  
旭トステム外装(株)サービスデスクナビダイヤル TEL.0570-001-117

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00(祝日、年末年始、夏期休暇等を除く)

TEL. ☎ 0120-413-433 FAX. ☎ 0120-413-436

<https://www.lixil.co.jp/support/>

交換用部品については、リクシルストアまで

お客さまご自身でお取替えいただける部品については、LIXIL公式通販サイトよりご注文ください。

■リクシルストア <https://store.lixil.co.jp/>

リクシルストアに掲載のない部品につきましては、お買い求めの取扱い店または

当社お客さま相談センター ☎0120-126-001 にご連絡ください。

### 安全に関するご注意

ご使用前に「取扱説明書」をよくご覧のうえ、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

### 個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさまおよび流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社の「個人情報保護方針」に記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「個人情報保護方針」をご覧ください。

- 商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますのでご了承ください。

取説番号 MAQ-326	事業所コード BFL1	2025.6.3発行
--------------	-------------	------------

